

勝連小学校 NIE 実践報告書

うるま市立勝連小学校

I はじめに

勝連小学校では、平成22・23年度のNIE指定校として実践を行ってきた。指定当初は、職員の中から「NIEはどう実践すればいいのか」「新聞の活用といっても教科の中にどう位置付けていいのか」「新学習指導要領で新聞活用が挙げられているが、教科は限られてくるのではないか」という不安の声が多く聞かれた。まずは、職員の不安をなくし、多忙感で実践をしていくのではなく、気軽に子どもたちが親しむようにすることから実践していくようにということを共通確認した。

確認の方法としては、一学年をモデルケースとして、短学活（朝の会・帰りの会）で新聞記事の紹介から始め、授業の中での活用という手法をとってきた。それでも、なかなか職員の間浸透するには時間がかかった。しかし、市教育委員会のバックアップもあり、徐々に意識が変わり、新聞を手に取りやすい箇所においておくと、教師だけでなく児童も自然に目を通すようになり、大きな変化が生じた。

実践としてはまだまだスタート地点に着いたところという感じであるが、誰でも気軽に新聞を活用できるような雰囲気生まれた勝連小学校である。この雰囲気、ぜひ職員の実践が積み上げていければと考える。

II テーマ

豊かな表現力を身につけた児童の育成 ～言語活動を意識した授業実践を通して～
(言語活動における実践での新聞活動を通して)

III 実践の概要

1 NIE指定校としての実践(案)

① 新聞購読の促進

【新聞を活用した授業実践】

例) 新聞に親しむ活動

- ・児童の興味関心に基づく新聞記事の切り抜き
- ・新聞記事の写真を活用して、記事の内容を予想する活動
- ・新聞社への作文の投稿

② 国語の単元における新聞の活用

【新聞記者を招いての授業実践】

例) 新聞記者を授業に招く活動

- ・新聞記者に記事の書き方を学ぶ
- ・カメラマンに写真の撮り方を学ぶ

③ 社会科・総合の単元における新聞の活用

【新聞を活用した授業実践】

例) 社会科の単元に活用できる記事を授業に使用する

- ・環境問題に関する記事を授業で使用する(5年)
- ・政治に関する記事を授業で使用する(6年)
- ・地域の記事を授業で使用する(3～5年)

④ 道徳における新聞の活用

【新聞記事を活用した授業実践】

例) 道徳に新聞への投稿や感動する話の記事を活用

- ・東日本大震災関連の記事を活用した道徳

・募金に関する記事を活用する

・心身に障害を持つ人に対するエピソードを取り扱った記事を活用する

⑤ 義援金の募集に新聞記事のパネルを活用する

【大震災の新聞記事をパネルに貼って活用する】

例) 東日本大震災の新聞記事を活用して被災地に絵本を贈る活動

- ・地震・津波の被害にあった記事を見て被害の大きさを実感する
- ・時系列的に新聞記事で被害の甚大さを実感する
- ・新聞記事から感じたことを表現し、被災地の人へ手紙を書く

IV 具体的な実践

1 新聞に慣れ親しむ活動

① ねらい

3・4学年で新聞に親しみ、新聞記事に興味をもって読むという活動を中心に実践を進めた。児童が、新聞の記事を読み込み、記事から興味をもったことや調べたいことについて感想をまとめることができるように新聞活用を図った。

② 活動

新聞を取っていない家庭もあり、まず新聞に興味をもって、どんな記事があるのかを知る活動から始めた(「新聞を読んでみよう」2時間)。そこから、新聞記事に興味をもち、新聞に書かれている事実をつかむという活動へと展開していった(「新聞に書かれていることをつかもう」2時間)。新聞記事から情報を得て、その事実について自分なりの考えをもつということ、本時のめあてとして学習を進めた(「新聞記事を読みこもう」3時間)。その際に、3年生には文章表現が難しい所もあり、辞書による語句調べや表現の難しい箇所を教師が説明するというように個別の活動へと移っていった(「言葉を理解しよう」3時間)。さらに、新聞記事をスクラップにして、自分の考えを書くという活動を実践した(「記事を切ってはり、考えを書こう」3時間)。最後にまとめた考えを発表し、意見の交流を行った(「考えを発表し、感想を出し合おう」2時間)。

③ 成果

児童は、朝の会を利用して、日直が新聞記事を紹介し、その記事について考えを述べるという形式で発表を行った。その発表を全員が終えて、感想の交流を行ったところ、記事に対する興味がさまざま、どのような考えをもっているのかが分かってよかった、記事を読み方が分かってきたという意見があり、新聞に対する興味が高まった。また、自分の書いた作文を新聞へ投稿する活動にも興味を示し、発展的に新聞への関心が高まった。



2 国語の単元における活用

【4学年における実践】

① 単元名「アップとルーズで伝える」

② ねらい

写真と文章を対比させて、上手な説明の仕方を工夫するという学習課題をもとに、仕事リーフレットを作る。

③ 活動

説明文の伝え方、筆者の意図するところは何かをとらえる。そのとらえ方として、新聞記者による講話で、新聞記事の書き方、カメラマンによる写真の撮り方、文章に合わせた写真の掲載という手法を学んだ（写真の「アップ」と「ルーズ」の使い分け方、説明する上でのよさを確認する）。また、実際の新聞記事を通して、どのように文章化されるのかを学んだ（おでかけりゅうぼんでの号外の活用）。

④ 成果

新聞記者の方の話が具体的でわかりやすく、リーフレット作成に役に立った。写真の撮り方を意識するようになった。リーフレット作成がスムーズにできた。というように、子どもたちが、記者の話を実感し、国語の説明文と絡めて、学習に生かすことができた。おでかけりゅうぼんでの号外が子どもたちの励みになり、意欲をもって学習を進めることができた。



3 社会科の単元における活用

【6学年における実践】

① 単元名「ニュースから政治を調べよう」

② ねらい

ニュースを活用して、政治の働きと自分たちの生活がどのようにつながっているのかを考える。

③ 活動

新聞記事から自分たちの生活につながると考えられる記事を切り抜き、政治とどのようにつながるのかを予想する。切り抜いた記事を、全員でカテゴリ分けし、どのような記事が多くあるのかを視覚的にとらえる。

④ 成果

政治についての学習で、新聞から得られる情報が多くあり、記事を読み深めて、今の政治の動きを実感することができた。特に、増税については、賛成・反対の意見も出され、児童の政治に対する考え方も深めることができた。



4 道徳における活用

【6学年における実践】

① 教材名『大震災』を考える」

② ねらい

- ・東日本大震災の恐ろしさとともに震災の教訓を生かし、防災・避難に役立てる
- ・震災から復興へと歩み始めた人々の努力を、新聞記事からとらえる

(主題3-(1)生命尊重、関連項目2-(2)思いやり)

③ 活動

津波の写真記事、津波によって打ち上げられた船の写真記事から、津波の恐ろしさ、すぐに避難しなければならないことをつかむ（導入）。地震・津波の恐ろしさをつかんだ後、恐ろしさを身近に感じられるように、ことわざ「地震・雷・火事・おやじ」を例に出し、ペア学習で、そのことわざの意味について考える。そこから、地震ウェビングを行い、なぜ自身が怖いのかを全体でとらえていく（展開）。地震・津波の怖さを実感するだけでなく、新聞記事の復興へと立ち上がる人々の手記や感想を読み、自分自身で感じたことを文章化し、学級全体で交流して、人々の復興への願いや生き抜く強さについて感じていく（終末）。

④ 成果

新聞の写真を活用して、具体的に地震・津波の被害状況や理解できた。また、復興への手記などを読み、当事者の思いが感じられ、児童の身近に怖さを感じさせることができた。児童の感想にも、「津波が来るたびに水と炎が押し寄せてすべてを流された記事が怖いということを実感できた」「つらいことがあったのに前向きにがんばっていることがすごい」「ボランティアの思いがすごいと思う」「一人一人の力が集まると大きな力になることがわかる」というように感じる事ができた。



5 東日本大震災の新聞記事パネルでの活用

【学校全体として被災地に絵本を贈る活動】

読書活動の一環として取り組んだ活動であったが、新聞記事を掲載することによって、被害の甚大さ、人々の苦しみを感じ、相手を思いやる気持ちが生じた。加えて、記事をじっくり読もうとする児童も多数おり、関心が非常に高まった。





V 成果と課題

1 成果

- 朝の会や帰りの会で新聞記事紹介することにより、記事の内容に興味をもち、話題が記事についての感想になることもあった。
- 5W1Hをもとに、文章の書き方がわかり、文章表現の方法が身についてきた。
- 新聞からたくさんの情報が得られることが理解でき、国語や社会の教科の中でも新聞記事の話題ができてくるようになった。
- 新聞はわからないことや新しい情報を教えてくれるものとして身近に感じるようになってきた。
- 壁新聞づくりに関して、人に伝えるということを意識するようになり、読む人にわかりやすく伝えるように書くことができた。

2 課題

- 記事に掲載された漢字が読めなかったり、語句の意味が理解できなかったり、記事の内容についての感想がもてない児童がおり、語彙の指導が必要である。
- 新聞を教材として使用する場合、教材研究がかなり必要であり、教科の中に新聞を取り入れるためのアイデアを出し合う必要がある。
- 新聞記事の内容には、思想・信条の面が色濃く出される内容もあり、取り扱いに注意しなければならない場合がある。
- 新聞活用において、実践例や先行研究等の情報の共有化が必要であり、学校への認知度を上げていかなければならない。